

第44回全国都市緑化佐賀フェア(仮称) 基本構想(案)

令和7年●月

佐賀県

I 全国都市緑化佐賀フェア（仮称）の開催趣旨

佐賀県は「森川海はひとつ」という思いで、豊かな「森・川・海」を未来につなぐ「もりかわかいと森川海人っプロジェクト」に取り組んでいます。

山は、山間部だけでなく平野部の暮らしを支え、川の多様な生き物たちを育み、海への恩恵をもたらす源流です。山がなければ、私たちの豊かな暮らしは成り立ちません。山へ感謝する「おかげさんおかげ山」の気持ちが大切です。

未来に向かい「山」を大切にする人々の輪を広げていくため、令和10年に「山の博覧会（仮称）」を開催します。

そして、平野部においては、人々の手により、緑、花、水のある暮らしが紡がれてきました。今もまた、緑を増やし育て、花で地域を彩りもてなす活動や、豊かな緑を活かした佐賀の「本物」の良さを体感する取組が、県内各地で進められています。

佐賀の山と緑の価値を未来につなぐ、こうした動きを推し進め、ひとりひとりが自然との共生について考え、行動するきっかけとするために、国内最大級の花と緑の祭典「全国都市緑化フェア」を令和10年に開催します。

「さがデザイン^{*}」による磨き上げも行いながら、「山の博覧会（仮称）」と一緒に、全国の方々に佐賀の花と緑、山の素晴らしさを発信し、ひとりひとりの自発の取組によって佐賀の豊かな自然環境を未来につなげていきます。

2 全国都市緑化佐賀フェア（仮称）のコンセプト

理 念

全ての人々に恩恵をもたらす森・川・海を未来へ
～ 佐賀の山と緑の価値を未来につなぐ ～



目 的 ・ レ ガ シ ー

自然との共生について考え、行動するきっかけとし、
「自発の地域づくり」につなげる

事 業 の 柱

自発	人	交流	地域
<u>自発の地域づくり</u>	<u>志を持った人づくり</u>	<u>協働による交流</u>	<u>本物の価値を伝える</u>
✓県民と地域が主役の 自発的な地域づくり	✓こどもたちが骨太に学び育つ 体験	✓CSO、学校、企業等との 協働による交流の場の創出	✓花と緑、山の素晴らしさを 体感
✓地域の自発的な緑化 活動の推進	✓志を持って挑戦する人材の 育成	✓本物の魅力、唯一無二の体験 の発信による新たな交流	✓自然、歴史や文化など 佐賀の本物に触れる体験
✓地域づくりの核となる 人材の育成	✓森・川・海のつながりを大切に 思い、行動するきっかけづくり	✓花と緑をきっかけとした 人と人のつながり	✓地域資源の更なる磨き 上げ・新たな価値の創出

佐賀の過去・現在・未来を 緑でつなぐ

(佐賀の誇れる歴史)

佐賀は、弥生時代のクニのはじまりを伝える日本随一の歴史的価値を持つ吉野ヶ里遺跡を有し、歴史を大切にす文化が根付いています。

また、長い歴史において、先人たちの知恵と工夫により治水と利水に取り組み、水の恵みにあふれる県土をつくりあげてきました。

そして、幕末・維新期に「技」「人」「志」により日本を牽引した誇れる歴史と、それを引き継いだ挑戦するマインドが息づいています。

(緑でつなぐ)

花と緑を植えること、育てること、見ること、学ぶこと、食べること等、緑を通じた様々な関わり方を通じて、佐賀の過去に新たな光を当て、佐賀の現在の価値を感じられる場を創り出し、佐賀の未来の姿を描き出すことで、佐賀らしい緑化フェアをつくりあげていきます。

緑化フェアの様々な価値を 日常に還元する

「自発の地域づくり」につなげ、
県民が実感できるレガシーに

緑化フェアは、幅広い分野で様々な価値を生み出す
可能性を持っています。

県民の日常生活に関わる幅広いテーマを通じて、ひとり
ひとりの県民の参画につながるよう、県民や民間事業者、
関係団体等との連携体制を構築していきます。

県民ひとりひとりによる「自発の地域づくり」につなげ、
緑化フェアが生み出す様々な価値を県民が日常生活で実感
できるものとしていきます。

1

県民参加

2

防 災

3

公共空間

4

観 光

5

テクノロジー

6

健 康

7

生物多様性

8

伝統文化

9

地域産業

4 開催概要(1)

■名称・愛称・テーマ

フェアの開催趣旨・コンセプトをもとに、
分かりやすく親しみやすい名称・愛称・テーマを、
基本計画以降に設定します

■主催者等

主催者

佐賀県、公益財団法人都市緑化機構

実施主体

フェアの実施組織として実行委員会を設置

提 唱

国土交通省

■時期

令和10（2028）年春、2か月程度

4 開催概要(2)

■会場

佐賀城公園、森林公園及び吉野ヶ里歴史公園を
主たる会場とします

各地域との連携のもと県全域で展開します



■シンボルマーク

基本計画以降に設定します

■イメージキャラクター 森川海人（もりかわかいと）くん



5 スケジュール

	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
基本構想	懇談会 ●	大臣同意			
基本計画		検討組織 ●			
実施計画		実行委員会 ●			
会場整備			基本・実施設計／会場整備		

緑化フェア開催

■基本構想懇談会

基本構想の策定にあたり有識者等の意見を聴取するため、全国都市緑化佐賀フェア（仮称）基本構想懇談会を設置しました。

■基本計画の検討組織

基本構想のもと、基本的な事業計画を策定するための検討組織を設置します。

■実行委員会

基本計画の策定後、円滑な事業実施を図るため、主催者、関係団体等により構成される実行委員会を設置します。

■実行委員会事務局

実行委員会のもと、各事業を実施するための組織として実行委員会事務局を設置します。

附 属 資 料

全国都市緑化佐賀フェア（仮称）基本構想懇談会

■委員名簿

座長

西川 真水 西日本短期大学 緑地環境学科 教授

委員

鵜池 邦敏 一般社団法人佐賀県造園建設業協会 会長

牛島 英人 一般社団法人佐賀県観光連盟 副会長

小出 則康 佐賀県花づくり推進協議会 会長

堤 雄亮 佐賀商工会議所 青年部 副会長

寺野 幸子 NPO法人^{ポコ ア ボッコ}poco a boccho 理事長

真子 真波 佐賀県小中学校校長会 副会長

山口 敬子 株式会社佐賀新聞社 営業局 地域ビジネス部長

山口タ妃子 佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授

山下 裕子 ひと・ネットワーククリエイター／

全国まちなか広場研究会 理事

アドバイザー

涌井 史郎 東京都市大学 環境学部 特別教授

オブザーバー

国土交通省 九州地方整備局 建政部 公園調整官

佐賀県副知事

■開催実績

第1回 令和7年2月12日（水）

- ・全国都市緑化フェアの概要について
- ・佐賀フェア（仮称）について

第2回 令和7年6月 6日（金）

- ・基本構想（案）について

第3回 令和7年7月 日（ ）

- ・基本構想（案）について

(1) 展示計画

「まちと山とのつながり」を表現するとともに、あらゆる機会において、多様な人々が関わることを目指します。

多様な人々の関わりを見えるかたちにし、人の想いが伝わる展示とします。

佐賀の「本物の価値」を伝え、ひろげていく佐賀らしい展示とし、質の高い花やみどりの魅力を伝えます。



九州佐賀国際空港付近の
ポピー園

(2) 出展計画

花やみどりに関する技術・技能を発表する場、技術・技能の継承を育む場とします。

参加したくなるような仕掛け、仕組みをつくり、広く参加を呼びかけます。

様々な地域からの出展参加を、ストーリー性ある演出などで表現します。



佐賀県出展花壇
(ぎふフェア)

(3) 行催事計画

「まちと山のつながり」をフェア会場等で実感できる行催事や、会場のロケーション、特徴的な景観の中でそこでしか体感できない行催事により、佐賀らしいフェアとなるよう盛り上げていきます。



子ども向け体験イベント
(アルクス)

(4) 協働推進計画

フェアを通じて「自発の地域づくり」の輪がさらにひろがる姿を目指し、準備段階からフェアに参画できる仕組みを整えます。

参画により緑化の楽しさや達成感を感じ、県民全体でフェアを盛り上げ、フェア後のレガシーにつながるような仕組みをつくります。



県民の方々と
来園者された方々により
整備された花壇
(ぎふフェア)

(5) 飲食関係計画

フェアの雰囲気を感じながら食を楽しめる空間をつくるため、佐賀ならではの「食」を積極的に取り入れた出店の仕組みを整えます。

(6) 会場運営計画

広大な複数の会場で、誰もが安全で快適にフェアを楽しむ管理運営体制を整えます。

(7) 広報宣伝計画

広報宣伝開始から開催期間までの各段階で、効果の高い情報発信、来場につながる取組を実施します。

(8) 植物調達計画

フェアで使用する植物は、短期間に多様で大量の調達が必要となるため、展示、会場整備等の各計画と連携した植物調達を実施します。

県内の植物生産・流通状況を踏まえ、県内生産団体等と協力して植物調達体制を構築します。

(9) 交通輸送計画

各会場へのアクセス条件を十分に踏まえ、公共交通機関を最大限活用します。

必要に応じた補完的な輸送方法を検討し、分かりやすく誰もが快適な交通輸送を実施します。

山の博覧会（仮称） × 全国都市緑化フェア 開催イメージ

